

早稲田大学 図書館紀要

第 55 号



吉田東伍のこと

加藤哲夫

図書館の生命線は、所蔵資料を多くの人びとに十分に活用してもらうことにある。電子化によって利用の方法が多様化した今日、価値ある学術資料を有効に活用してもらう環境そのものが、いつそう図書館の命といえる。

過日、新潟県阿賀野市の吉田東伍記念博物館に招かれた。吉田は、今日でも歴史地理学におけるバイブルとも言うべき大著『大日本地名辞書』（富山房刊）の編纂者であるとともに、『倒叙日本史』『世阿弥十六部集』など、多くの高著をもつ。明治から大正にかけて早稲田で歴史学を講じ、明治四二年に文学博士号を授かっている。

その偉業はいまもって語られるが、自筆原稿（当館所蔵）をみて驚愕した。墨書による細密な記述は、図書館に通いつめた上での成果であり、自宅の書齋がガランとしていることを不思議に思った当時の富山房店主も、それを聞いて合点がいったと言う。

さらびやかな学歴をもたない吉田は、出身を「越後の百姓」、学歴を「図書館卒業」と、自負していた。

雪降る新潟の地で、図書館の命をあらためて得心した。

2008 年 3 月